

# 膵管・胆管の合流異常と胆のう・胆管がんの予防について

膵管と胆管は通常、十二指腸につながり、膵液と胆汁を別々に腸内に流し込んでいますが、膵管と胆管が合流異常によってつながってしまうと、膵液が胆管に流れ込み、それによって胆のうや胆管にがんを引き起こします。



胆のう・胆管がんの5年生存率は27%、毎年約1万8000人が死亡しています。

胆のう・胆管がんは、本来50歳以上で多く見られますが、合流異常の人では30~40歳代でも発症します。



合流異常を早く見つけることで、胆のう・胆管がんにならずにすみます。

超音波検査で胆のうの壁が厚い、胆管が拡張している、などの異常が見つかったら、合流異常の可能性があるので、消化器内科を早めに受診しましょう。

